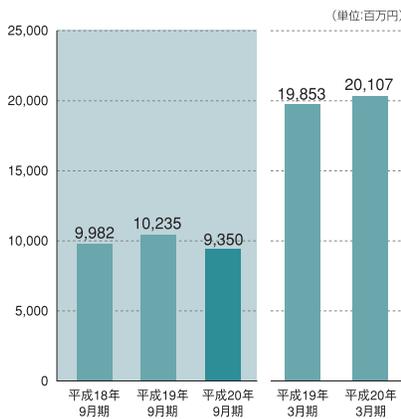


業績のハイライト（個別）

The highlight of achievements

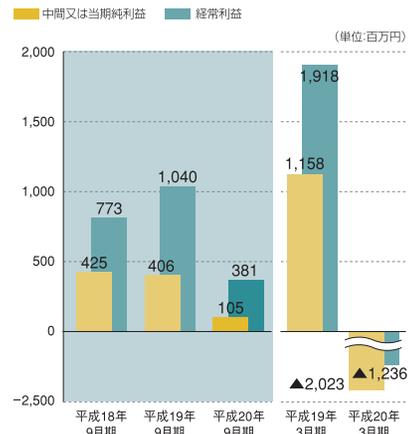
経常収益

経常収益は、有価証券利息配当金や貸出金利息が減少したことなどから、93億50百万円（前年同期比8.6%減）となりました。



経常利益・中間純利益

経常利益は、米国金融危機に伴う世界的な金融市場の混乱の影響を受け、コア業務純益の減少や有価証券の減損処理などにより、3億81百万円（前年同期比63.3%減）、中間純利益は1億5百万円（前年同期比73.9%減）となりました。



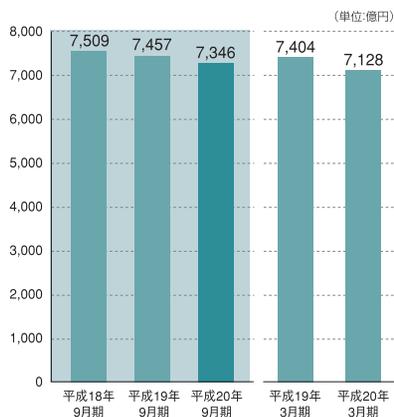
業務純益・コア業務純益

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、経費全般の削減に努めたものの、業務粗利益が減少したことなどから、9億14百万円（前年同期比30.7%減）となりました。



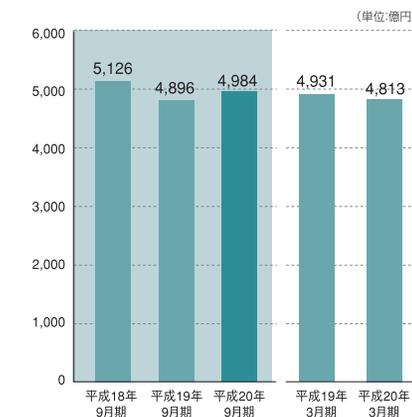
預金・譲渡性預金残高

預金・譲渡性預金残高は、主力の個人預金をはじめ、公金預金などが堅調に推移したことなどから、7,346億24百万円（平成20年3月比218億24百万円増）となりました。



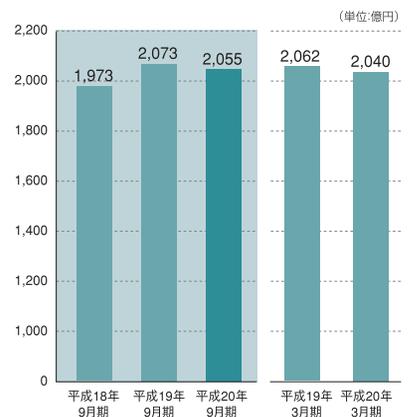
貸出金残高

貸出金残高は、住宅ローン残高が減少したものの、営業力の強化により、中小企業向け貸出が増加するとともに、地方公共団体向け貸出が堅調に推移したことなどから、4,984億1百万円（平成20年3月比170億17百万円増）となりました。



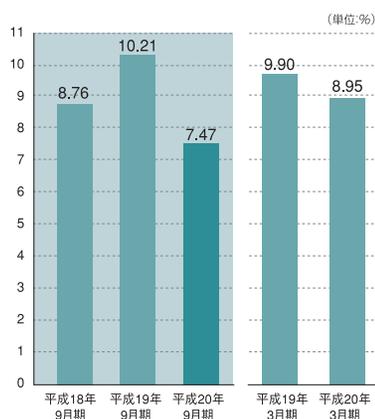
有価証券残高

有価証券残高は、2,055億43百万円（平成20年3月比15億30百万円増）となりました。



単体自己資本比率（国内基準）

単体自己資本比率（国内基準）は、中間純利益1億5百万円を計上したものの、米国発の金融危機による世界的な金融市場の混乱の影響を受けて、「その他有価証券の評価差損」（減損処理までには至らない含み損）が急速に拡大したことから、平成20年3月比1.48ポイント低下し、7.47%となりました。



格付

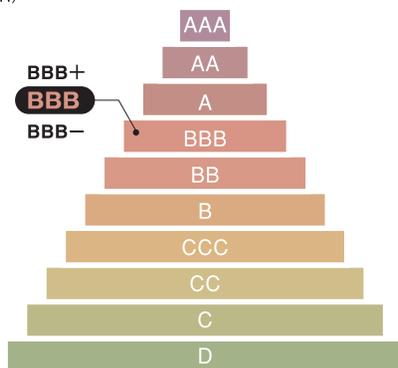
当行では、第三者による評価をとおして、財務内容の健全性と経営の透明性を積極的に開示していくことにより、株主やお取引先の皆さまに当行の経営状況をより深くご理解いただくことを目的に、株式会社日本格付研究所（JCR）より格付を取得しております。

格付機関
株式会社日本格付研究所（JCR）

格付種類
長期優先債務格付

格付
BBB（トリプルBフラット）

見通し
安定的



金融再生法開示債権

金融再生法に基づいた資産査定の結果、銀行の保有する債権（貸出金・支払承諾見返等）のうち、正常債権以外の債権額は、261億63百万円（前年同月比3億85百万円減）となりました。

金融再生法に基づく開示債権額（平成20年9月末現在）



金融再生法開示債権の保全内訳

（平成20年9月末現在、単位：百万円）

	債権額（A）	保全額（B）	保全内訳		保全率（B/A）
			担保・保証等	貸倒引当金	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	8,320	8,320	6,155	2,165	100.00%
危険債権	15,124	13,952	12,412	1,539	92.25%
要管理債権	2,717	1,174	692	482	43.21%
正常債権	477,503	263,490	262,633	857	55.18%
合計	503,666	286,938	281,894	5,044	56.97%

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権。

要管理債権

3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。

正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記3つの債権以外のものに区分される債権。

不良債権比率の推移

